

1 単元名 跳び箱運動

2 運動の特性

(1) 一般的特性

跳び箱運動は今できる技を安定した動作で跳んだり、大きな動作で跳んだりすることや練習すればできそうな技に挑戦したりすることが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性 (男子 18名 女子 13名 計 31名)

A 運動の楽しさの体験状況

① 体育の学習は好きですか。(理由は自由記述)

とても好き	好き	きらい	とてもきらい
21名	8名	2名	0名
・たくさん体を動かせる (8名)		・疲れる (1名)	
・いろいろな運動ができる (7名)		・苦手な運動が多い (1名)	
・友達と協力できる (6名)			
・できないことができるようになる (6名)			
・達成感が得られる (2名)			
・気持ちがすっきりする (1名)			
・盛り上がる (1名)			

② 跳び箱運動は好きですか。(理由は自由記述)

とても好き	好き	きらい	とてもきらい
15名	10名	1名	5名
・新しい技ができたとき (12名)		・けがが怖い (3名)	
・高い段がとべるようになったと (6名)		・上手に跳べないとき (2名)	
・上手に、きれいに跳べたとき (5名)		・自分だけできないと恥ずかしい (1名)	
・大きく跳べたとき (1名)		・跳ぶだけでつまらない (1名)	
・協力して練習しているとき (1名)			
・難しい技に挑戦しているとき (1名)			
・技を工夫しているとき (1名)			

③ 跳び箱運動の学習は楽しみですか。

楽しみにしている	あまり楽しみにしていない
24名	7名
・新しい技ができるようになること (15名)	・技の仕方や練習方法がよくわからない (3名)
・高い段数に挑戦すること (5名)	・けがをしないか心配、技が怖い (3名)
・大きく跳び越したい (3名)	・下手なので、友達に笑われないか心配 (3名)
・できる技を工夫したい (1名)	・一度も技が成功したことがない (1名)

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

④ 自分に合った具体的なめあてをもてますか。

自分でめあてをもてる	アドバイスや資料があればもてる	もてない
25名	5名	1名

⑤ 取り組む技の、気を付けるところ、練習の進め方はわかりますか。

自分でわかる	アドバイスや資料があればわかる	わからない
11名	20名	0名

⑥ 自分でめあてを達成できないときはどうしますか。(自由記述)

・友達にアドバイスをしてもらい、友達の技を見る	(20名)
・頑張っって練習する	(10名)
・先生に聞く	(3名)
・練習場や練習方法を工夫する	(3名)
・めあてをやさしいものに変える	(1名)

⑦ 友達が困っているとき、アドバイスや協力、教え合いができますか。

しっかりとできる	まあまあできる	少し苦手	できない
10名	13名	8名	0名

⑧ 上手に跳ぶには何に気を付ければよいと思いますか。(自由記述)

・着手の仕方、位置	(18名)	・踏み切り	(13名)
・ピタッとした着地	(2名)	・技を行った後のふり返り	(2名)
・足を広げる	(2名)	・空中姿勢	(1名)
・ひざを伸ばして腰を高くする	(1名)	・助走～踏み切りをスムーズに	(1名)
・技のポイントを考える	(1名)	・助走	(1名)

⑨ 跳び箱運動の学習を通してどのようなことができるようになりたいですか。(自由記述)

・高い段を跳ぶこと	(10名)	・いろいろな技ができること	(9名)
・大きく、きれいに跳ぶこと	(7名)	・縦のかかえ込み跳び	(4名)
・台上前転	(2名)	・低い段でもいいから跳ぶこと	(1名)
・縦向きの跳び箱を跳ぶこと	(1名)	・友達にアドバイスをすること	(1名)

⑩ 跳び箱運動の学習をどのような学習にしていきたいですか。(自由記述)

・協力したり、アドバイスをし合ったりする学習	(12名)
・みんなが楽しめる学習	(8名)
・苦手な技ができるようになる学習	(5名)
・みんなのめあてが達成できる学習	(3名)
・たくさん跳んで楽しい学習	(2名)
・跳び箱運動が好きになって、一生懸命取り組む学習	(2名)
・けがのない学習	(2名)
・技の発表会をしたい	(1名)

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況

番号		A			C					
		体育 学習	跳び箱 運動	跳び箱運動 理由	開脚跳び		かかえ込み跳び		横跳び 越し	台上 前転
					縦	横	縦	横		
1	男	○	○	跳べると嬉しい	6	6	×	5	5	×
2	男	◎	◎	上手く跳べると楽しい	6	6	6	6	6	6
3	女	○	△	上手く跳べない	×	×	×	×	×	×
4	女	◎	○	跳べると達成感がある	×	5	×	4	5	×
5	女	◎	○	上手く跳べると楽しい	6	6	×	×	5	×
6	男	◎	◎	色々な技に挑戦	6	6	6	6	5	6
7	男	◎	○	新しい技ができた	6	5	×	4	5	×
8	男	○	×	跳ぶのがつまらない	6	6	×	×	5	×
9	男	◎	◎	友達とやると楽しい	6	6	4	6	6	6
10	男	◎	◎	できなかった技ができた	6	6	×	6	6	6
11	男	◎	◎	できなかった技ができた	6	6	×	6	6	5
12	男	◎	◎	高い段が跳べると嬉しい	6	6	×	×	6	×
13	女	△	×	足が痛くなる	×	×	×	×	4	×
14	男	△	×	技ができない	×	×	×	×	×	×
15	女	○	○	高い段が跳べると嬉しい	6	6	×	×	4	×
16	女	◎	◎	きれいに跳べる	6	6	×	×	4	×
17	男	◎	◎	大きくジャンプ	6	6	×	6	6	6
18	男	◎	◎	跳べると嬉しい	6	6	×	6	6	5
19	男	◎	◎	技の習得が楽しい	6	6	×	6	6	6
20	女	○	×	失敗が怖い	4	5	×	×	5	×
21	女	◎	◎	工夫して練習するのが楽しい	6	6	×	6	4	6
22	女	◎	◎	新しい技ができる	6	6	6	6	6	6
23	女	○	○	技が成功すると楽しい	6	6	×	×	5	×
24	男	◎	○	高い段が跳べると嬉しい	4	6	×	×	6	×
25	男	◎	○	難しい技に挑戦	6	6	×	×	5	4
26	男	◎	×	けがが怖い	6	6	×	5	4	×
27	女	◎	◎	技が成功すると楽しい	6	6	×	6	6	6
28	女	○	◎	高い段が跳べると嬉しい	6	6	×	6	5	4
29	女	◎	◎	高い段が跳べると嬉しい	6	6	×	4	5	×
30	男	○	○	技が成功すると楽しい	4	5	×	×	5	×
31	男	◎	○	色々な技に挑戦	6	6	×	×	5	×

関心・意欲 (◎…とても好き ○…好き △…嫌い ×…とても嫌い)

技能 (×…跳び越すことができない)

【考察】

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の子どもたちは、明るく活発で、運動に親しみをもって取り組んでいる様子が多く見られる。体育の学習についても、9割以上の子どもが「とても好き」・「好き」と答えている。それらの子どもは、たくさん体を動かすことや様々な運動に取り組めること、運動の技能の習得に喜びを感じている。跳び箱運動については、8割の子どもが「とても好き」「好き」と答えている。特に新しい技や高い段数への挑戦、今できる技の完成度を高めることに意欲をもっている子どもが多い。

一方で、体育学習について苦手意識や抵抗感をもっている子どももあり、跳び箱運動についてはさらに多くの子どもの意欲が低下する。跳び箱運動を「きらい」「とてもきらい」と答えた子どもは、跳び箱に対する恐怖心や技が失敗することへの羞恥心をもっている。また、練習の成果が出ないときに意欲が停滞し、「楽しくない」と感じている。本単元では、意欲の低い子どもが安心して学習に取り組んだり、成功体験や達成感を味わったりすることができる手立てが必要である。

「今できる技」を繰り返し行い、成功体験を重ねたり、技の出来栄にこだわりをもったりすることで、苦手な子どもも、得意な子どもも意欲をもって学習に取り組むことができる考える。つまりきに応じたやさしい場や用具を準備したり、小さな成長を認める声掛けをしたりして、前向きに新しい技に挑戦できるようにしていく。

体育の学習を通して友達とのかかわり合いが深められることを大切に思っている子どもが多い。休み時間や学級活動の様子を見ると、男女の隔たりなく誰とでも仲良く活動する姿が見られる。本単元においても、互いの違いを認め合ったり、励まし合ったりしながら、誰もが安心して学習に取り組めるような雰囲気大切にしていきたい。また、安心・安全に学習を進めていくためのルールやマナーについては、オリエンテーションでしっかりと確認し、毎時間の学習でも適宜扱っていく。誰もが跳び箱運動の楽しさを味わい、意欲的に取り組める学習を計画していきたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

自分に合った具体的なめあてをもって体育学習に取り組めると答えた子どもは多い。しかし、めあて学習の経験は少なく、自分の力や運動のポイントを理解している子どもは少ない。今年度実施したマット運動では、めあて①とめあて②を混同していたり、自分の課題とその練習の場・方法が合致していなかったりした子どもも多く、その都度助言やめあての修正を行ってきた。学び方をしっかりと身に付け、自分の目標や課題に向かっていける学習にしていきたい。

課題の解決に向けて、「友達との協力」が有効な手立てであると感じている子どもが多い。また、跳び箱運動をどのような学習にしていきたいかという質問にも、「互いに協力し、教え合うことができる学習にしたい」という回答が多い。本学級の子どもは、様々な学習経験を通して、いろいろな実態がある中で共に学び、共にできる喜びを味わう大切さについて感じている。跳び箱運動は個人の運動であるが、かかわり合いを大切にし、互いにこつや気が付いたことを伝え合うことで、得意な子どもも苦手な子どもも共に学び合えるようにしていきたい。

技能のポイントについては、「踏み切り」や「着手」が必要な要素であると多くの子どもが捉えている。しかし、どのような踏み切りや着手がよいのか具体的に答えられる子どもは少ない。また、一つの技を、助走から踏み切り、着手、着地までの一連の流れとして捉えている子どもはほぼいない。そ

こで、今回の学習では、技能のポイントや技のイメージを明確にもてるような掲示物や映像などの資料を充実させていく。そうすることで具体的なめあてをもったり、技を見合うときの視点が明確になったりするだろう。一人一人が目指す姿を明確にもち、それぞれの成果を認め合ったり互いに教え合ったりして取り組んでいけるようにしたい。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

技能の習得状況には大きな差がある実態である。多くの子どもが開脚跳びができ、一部の子どもは強い踏み切りと着手で、腰が高く上がった開脚跳びができていた。一方で、3名は4段の横向きの跳び箱を開脚跳びで跳び越すことができなかった。跳び箱を跳び越すことへの恐怖心があり、思い切り踏み切ったり、肩が前に出るように着手したりすることができていなかった。また、開脚跳びで跳び越すことができていた子どもについても、両足を揃えて強く踏み切ることや着手してから突き放す意識は低く、技としての完成度は低いものであった。かかえ込み跳びや台上前転については、約半数の子どもが跳び越すことができなかった。

これらの状況から、「助走」「踏み切り」「着手」「着地」という基本的な技能について、単元を通して丁寧に指導していきたい。これらの技能が身に付くように毎時間の始めに主運動につながるやさしい運動を取り入れていく。跳び箱を跳び越すことに恐怖心をもっている子どもも安心して取り組めるような運動を行いながら、助走からの踏み切りや腕の支持・突き放し、膝をやわらかく使った着地の技能を身に付けられるようにしていきたい。また、「助走～着地」の一連の流れをスムーズに行うことについても意識できるよう支援していきたい。

3 研究主題と学習の手立て

(1) 市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 視点と学習の手立て

視点1 子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で、道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

〈手立て〉

○見通しをもち、学び方を身に付ける学習の道すじ

本単元では、めあて①「今できる技を安定させたり、大きくしたりして楽しむ」、めあて②「もう少しできそうな技に挑戦して楽しむ」のスパイラル型の学習の道すじで進めていく。ただし、学習の進め方や課題の解決の仕方に不安を抱いている子どももいる実態に合わせて、オリエンテーション後の第2時にめあて①、第3時にめあて②と1時間ずつとることとした。単元の前半でそれぞれのめあての活動について学ぶことで、学び方が身に付き、それぞれの楽しさを味わうことができると考えた。学習する内容や見合う視点、課題に合わせた練習の方法や場の使い方などを理解し、子どもたちが学習の見通しをもって、安心して学習に取り組めるようにしていきたい。

めあて①の考え方

今できる技の出来栄えにこだわり、技を安定させたり、より大きくしたりする楽しさを十分に味わわせたい。技をきれいに、大きくするポイントや見合う視点は資料等で示し、技のイメージや学習の仕方を明確にする。

また、運動遊びの要素を含んだもの（跳び乗り・下り、またぎ乗り・下り等）についても技と捉え、選べるようにすることで、跳び箱運動に苦手意識をもつ子どもが安心して学習できるようにする。

めあて②の考え方

技のポイントを示した資料やそれぞれのつまずきを補助するやさしい場を準備する。できない技へ挑戦する恐怖心や不安を取り除き、スモールステップで新しい技の習得を目指せるようにしていく。安全で正しい練習の仕方を身に付けるとともに、自分の課題に合わせて選択できるようにしたい。

学習の見通し


オリエンテーションのもち技調べと、技の系統表や映像資料から、本学習でどの技ができるようになりたいか目標を立てる。その目標の設定が今回の学習の見通しをもつことである。子どもたちが自分に合ったゴールをもち、それに向けて課題と方法を考えたり選んだりしていく。技能面を気にして意欲が低い子どもも、自分で立てた目標を達成しようとする意欲をもち、自分の課題を解決する喜びを味わえるようにしたい。目標の設定やめあての内容については、資料を活用し、本人と相談しながら変更・修正等の指導・支援をしていく。

視点2 一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

〈手立て〉

○つながる運動

跳び箱運動に必要な感覚や技能にふれられる運動（つながる運動）を、単元を通して毎時間の始めに行う。誰もが抵抗なく行えるやさしい内容を繰り返し行う中で、「助走～踏み切り」「着手」「着地」という跳び箱運動の基本的な技能を着実に身に付けられるようにしたい。ここで身に付けた技能や感覚が、技をより大きくしたり、新しい技の獲得につながったりしていくと考える。

つながる運動	動き	身に付けさせたい技能、感覚
かえる倒立	○両手で体を支え、腰を高く上げる。	腕支持、逆さ
うさぎ跳び	○両手を着いて両足を前へ移動させる。 ○手を着いた後は「バンザイ」する。	腕支持、突き放し
腰上げジャンプ	○跳び箱に手を着き、両足をそろえて踏み切り、腰を高く上げる。	腕支持、両足をそろえた強い踏み切り
跳び乗り・跳び下り 	○助走から最後の一步を大きくとり、両足を揃えて音が鳴るように強く踏み切る。 ○両手をそろえ、強く突き放すように着手し、足の裏で跳び箱の上に乗る。 ○跳び箱から跳び下り、両足を揃え、その場から動かないように静かに着地をする。	○両足をそろえた踏み切り →◎強い踏み切り ○両手をそろえた着手 →◎強く突き放す着手 ○両足をそろえた着地 ※◎は

○技能のポイントや技のイメージを明確にする資料の提示

本単元では、自分に合っためあてを立てたり、課題にあった練習方法を選択したりする力を身に付けさせたい。また、自分で考えるだけでなく、友達と教え合いながら課題の解決ができるようにしたい。しかし、良い技のイメージや技の構造を理解している子どもは少ない。そこで、それらのポイントを示した以下の3点の資料を提示し、活用できるようにする。

① 「ドン・バン・ピタカード」(助走～着地までの技能のポイントがわかる資料) ※P17
オリエンテーションの際に提示し、すべての技の基礎となる「助走」「踏切」「着手」「着地」の技能のポイントについて共通理解を図る。また、提示されたポイントについてはオノマトペを用いて共有し、子どもが技を見合う際にそれらの言葉を使って活発な教え合いができるようにする。

② 「大ききカード」(めあて①で技を大きくするイメージをつかむための資料) ※P21～22
大きくした技の映像資料・技の分解写真を提示する。写真資料は壁等に掲示しておき、どのように「大きく」跳び越すことができるかイメージをもちながらめあて①の活動に取り組めるようにする。

③ 「技カード」(めあて②で技のポイントや課題に合った練習方法がわかる資料) ※P23～28
技のポイントや予想されるつまずき、その課題の解決方法が示された資料を用意し、めあてを決めたり、活動中に新しい課題が生まれたりした際に活用できるようにする。

※①～③の掲示資料には、子どもが学習中や学習カード等で気が付いた技能のポイントやコツを書き加え、全体で共有できるようにする。

4 学習のねらい

○友達とかかわり合いながら安全に気を付け、楽しんで跳び箱運動に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】

○自分の力に合っためあてをもち、練習の方法を選ぶことができるようにする。 【思考・判断】

○自分に合った安定した基本的な支持跳び越し技ができるようにする。 【技能】

5 評価規準（おおむね満足できる状況）

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・技を高めたり、組み合わせたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ・器械・器具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整理したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ・自分に合った技を選んで 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った安定した基本的な跳び越し技、及びその発展技ができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱運動に楽しんで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と教え合ったり、励まし合ったりしようとしている。 ③友達と協力しながら準備や片付けを行い、場や器具の安全に気を配って運動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分に合っためあてをもっている。 ②技のポイントや練習方法を知り、自分のめあてに合った練習の場を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 助走から、両足をそろえて踏み切ることができる。 ②両手をそろえて着手することができる。 ③両足で着地することができる。 ④挑戦した技で跳び越すことができる。

6 学習の道すじ（本時6/7）

	1	2	3	4	5	6（本時）	7
0 ↓ 45	オリエンテーション	つながる運動					
		めあて① 今できる技を、大きくして楽しむ。	めあて② もう少しでできそうな技に挑戦して楽しむ。	めあて① 今できる技をよりきれいに大きくして楽しむ。			
				めあて② もう少しでできそうな技に挑戦して楽しむ。			まとめ
関	① ③			②			①
思		①	②		①	②	
技		③		①	②	④	③

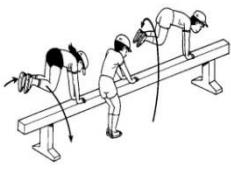

7 学習活動と教師の支援

	学習内容と活動	教師の支援・指導 (○)、評価 (◇)
はじめ	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <p>○学習のねらいや道すじを理解し、見通しをもつ。</p> <p>○学習の仕方やマナー、安全について理解する。</p> <p>○学習カード、資料の使い方について理解する。</p> <p>○助走～着地までの技能のポイントを考える。</p> <p>2 準備運動・つながる運動を行う。</p> <p>3 もち技調べを行う。</p> <p>4 学習の見通しをたてる。</p> <p>○技の系統表を見て、できるようになりたい技を決め、次時以降の見通しをたてる。</p> <p>5 整理運動を行う。</p> <p>◇跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度①】</p> <p>◇友達と協力しながら準備や片付けを行い、場や器具の安全に気を配って運動しようとしている。 【関心・意欲・態度③】</p>	
なか① 2 時間 目	<p>1 場づくりをして、準備運動をする。</p> <p>○ストレッチ</p> <p>○つながる運動</p> <p>・かえるの足打ち</p> <p>・うさぎ跳び</p> <p>・腰上げ</p> <p>・跳び乗り、跳び下り など</p>	<p>○協力して素早く安全に準備ができるよう、用具の正しい持ち方や必要な人数を伝える。</p> <p>○手首や足首、ひざなどの部位を入念にストレッチするように声を掛ける。</p> <p>○主運動へのつながりを意識してつながる運動を行えるよう動きのポイントを指導する。</p> <p>○助走～着地までのポイントを意識して取り組むように声を掛けたり、教師が師範したりする。</p>
	<p>・かえるの足うち…腕でしっかりと体を支え、腰を高く上げる。</p> <p>・うさぎ跳び …両手を着いた位置より前へ着地。着手後は、バンザイの形にして、体を切り返す。</p> <p>・腰上げ …手に体重をかける。腰をふわっと上げる。両足をそろえて強く踏み切る。</p> <p>・跳び乗り …両足をそろえて強く踏み切る。着手をしたらバンザイの形。着地は膝を柔らかくしてピタッと止まれるようにする。</p>	
	<p>2 学習のめあてを確認する。</p>	
	<p>めあて① 今できる技をよりきれいに大きくして楽しむ</p>	
	<p>3 めあて①の活動をする。</p> <p>○同じ場集まった友達とめあてを伝え合い、活動する。</p>	<p>○めあてを数名に発表させ、めあての内容とめあて①の活動の仕方を確認する。</p> <p>○技の分解写真を示し、技を安定させるポイントや大きくするポイントを確認する。</p>

	<p>開脚跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りを強くして第一空間を大きくする。 ・膝を柔らかくして着地をピタッと決める。 <p>かかえ込み跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をしっかり突き放して第二空間を大きくする。 <p>台上前転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピタッとした着地を決める。 <div data-bbox="220 636 826 999" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② ← ③ ← ④</p> <p>① →</p> <p>①技を行う②待機 ③第一空間（踏切～着手）④第二空間（着手～着地）</p> </div> <p>4 学習のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習をふり返し、学習カードに記録する。 ○次時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。 <p>5 後片付けをして整理運動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で技能のポイントや安全面、マナー、資料の活用の仕方について確認する。 ○友達のためあてに合わせた助言をするように声を掛け、見合うポイントを焦点化する。 ○オノマトペを用いて気が付いたことを伝え合うように声を掛ける。 ○互いに声を掛け合い、アドバイスをし合って活動している子どもを称賛し、学習への意欲を高める。 ○跳び乗りなどの技を選択している子どもも「大きく」を意識するように声を掛けたり、調節板の枚数を助言したりする。 ○自分のめあてに合わせてよい動きをしている子どもを取り上げ、全体やその場で紹介する。 ○マットや跳び箱がずれていたら直すように指導し、安全面に気を配ることができるようにする。 <p>◇自分に合っためあてをもっている。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断①】</p> <p>◇両足で着地することができる。 【技能③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○めあて①の学び方や楽しみ方、友達とのかかわり方が理解できたかを確認する。 ○活動を通して新しく気が付いたことや考えたことなど、全体で紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ○けがの有無を確認し、全員で安全に協力して片付けができるように声を掛ける。
<p>な か ② 3 時 間 目</p>	<p>1 場づくりをして、準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストレッチ ○つながる運動 ・腰上げ ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び など ・跳び乗り、跳び下り 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力して素早く安全に準備ができるよう、用具の正しい持ち方や必要な人数を伝える。 ○手首や足首、ひざなどの部位を入念にストレッチするように声を掛ける。 ○主運動へのつながりを意識してつながる運動を行えるよう動きのポイントを指導する。 ○助走～着地までのポイントを意識し、取り組めるように声を掛けたり、教師が師範したりする。

<p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて② もう少しでできそうな技に挑戦して楽しもう</div> <p>○工夫した場の使い方を確認する。</p> <p>3 めあて②の活動をする。 【予想されるめあてと活動】</p> <p>開脚跳び 連結した跳び箱で肩を前に出して着手を突き放す。</p> <p>かかえ込み跳び ロイター板で強く踏み切り、腰を上げてステージの上に着地できるようにする。</p> <p>台上前転 水深調節台の上にマットを敷きまっすぐ回れるようにする。</p> <p>4 学習のふり返りをする。 ○今日の学習をふり返り、学習カードに記録する。 ○次時のめあてを立てる。</p> <p>5 後片付けをして整理運動をする。</p>	<p>○どのような課題に効果的か紹介し、数名の児童に実演させ、使い方を理解させる。</p> <p>○取り組む技のポイントや自分の課題を学習カードや資料で確認し、自分に合った練習の場を選択できるようにする。</p> <p>○つまずきに対して教え合ったり、一緒に考えたりしている子どもを称賛する。</p> <p>○意欲的に活動に取り組めるように小さな成果や成長を認め、教師が進んで称賛する。</p> <p>○新しい課題が見つかった際には、資料を参考にして練習の場を選択するように助言する。</p> <p>○工夫した場で動作が安定してできるようになった子どもには、試しの場で挑戦してみるよう促す。</p> <p>○子どもの行う技や実態に応じて補助を行ったり、補助の仕方を指導したりする。</p> <p>○新しい技ができるようになった子どもを称賛し、こつや練習方法を全体に紹介する。</p> <p>◇技のポイントや練習方法を知り、自分のめあてに合った練習の場を選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断②】</p> <p>○めあてに対してどのような活動をするのができたかを振り返らせ、次時への見通しをもたせる。</p> <p>○活動を通して新しく気が付いたことや考えたことなど、全体で紹介する。</p> <p>○けがの有無を確認し、全員で安全に協力して片付けができるように声を掛ける。</p>
<p>なか③ 4 く 7 時間目</p> <p>1 場づくりをして、準備運動をする。</p> <p>○ストレッチ</p> <p>○つながる運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・腰上げ 	<p>○協力して素早く安全に準備ができるよう、声を掛ける。</p> <p>○手首や足首、ひざなどの部位を入念にストレッチするように声を掛ける。</p> <p>○主運動へのつながりを意識してつながる運動を行えるよう声を掛ける。</p>

<p>・跳び乗り、跳び下り など</p> <p>2 めあての確認をする。</p>	<p>○自分のめあてを思い浮かべながら運動に取り組めるよう助言する。</p>
<p>めあて① 今できる技をよりきれいに大きくして楽しもう</p>	
<p>3 めあて①の活動をする。</p> <p>○同じグループの友達とめあてを伝え合い、活動する。</p> <p>【予想されるめあて】</p> <p>開脚跳び</p> <p>・腰を高く上げ、体を水平にするようにして跳び越す。</p> <p>かかえ込み跳び</p> <p>・着手を手前にして第二空間を大きくする。</p> <p>台上前転</p> <p>・ひざをまっすぐに伸ばして大きく回れるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>紹介する子どもの例</p> <p>○踏み切りを強くして、第一空間を大きくしている。</p> <p>○ひざをまっすぐに伸ばして、大きな台上前転ができています。</p> </div> <p>4 めあて②の場の準備をする。</p> <p>5 めあて②の確認をする。</p>	<p>○前時までの子どものよい動きや気が付いたことを資料を示しながら紹介する。</p> <p>○互いに声を掛け合い、アドバイスをし合っている子どもを称賛し、学習への意欲を高める。</p> <p>○実態に応じて、調節版など、技を大きくするための用具を積極的に活用するよう声を掛ける。</p> <p>○自分のめあてに合わせてよい動きをしている子どもを取り上げ、全体やその場で紹介する。</p> <p>○マットや跳び箱がずれていたら直すように指導し、安全面にも意識を向けさせる。</p> <p>◇跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度①】</p> <p>◇約束を守り、友達と教え合ったり、励まし合ったりしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度②】</p> <p>◇自分に合っためあてをもっている。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断①】</p> <p>◇助走から、両足をそろえて踏み切ることができる。</p> <p style="text-align: right;">【技能①】</p> <p>◇両手をそろえて着手することができる。</p> <p style="text-align: right;">【技能②】</p> <p>◇両足で着地することができる。</p> <p style="text-align: right;">【技能③】</p> <p>○子どもの活動の様子を見て場の変更を指示する。</p> <p>○集合をさせ、取り組む技や練習の方法を確認させる。</p>
<p>めあて② もう少しでできそうな技に挑戦して楽しもう</p>	

	<p>6 めあて②の活動をする。</p> <p>【予想されるめあて】</p> <p>腕立て横跳び越し 手で体をしっかり支えて腰と足を高く上げながら跳び越せるようにする。</p> <p>首はね跳び ステージの上からはねるように下りる。</p>   <p>7 学習のふり返りをする。</p> <p>○今日のめあてについてふり返り、学習カードに記入する。</p> <p>○気が付いたことを伝え合う。</p> <p>8 後片付けをして整理運動を行う。</p>	<p>○取り組む技のポイントや自分の課題を確認し、自分に合った練習の場を選択できるように声を掛ける。</p> <p>○つまずきに対して教え合ったり、一緒に考えたりしている子どもを称賛する。</p> <p>○新しい課題が見つかった際には、資料を参考にして練習の場を選択するように助言する。</p> <p>○工夫した場で安定してできるようになった子どもに、試しの場で挑戦するように声を掛ける。</p> <p>○子どもの行う技や実態に応じて補助を行ったり、補助の仕方を指導したりする。</p> <p>◇技のポイントや練習方法を知り、自分のめあてに合った練習の場を選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断②】</p> <p>◇挑戦した技で跳び越すことができる。</p> <p style="text-align: right;">【技能④】</p> <p>○新しい技ができるようになった子どもを全体の場で紹介し、こつや有効な練習方法を共有する。</p> <p>○片付けが素早く行えている子どもを称賛し、片付けが滞っている場やグループを手伝う。</p>
<p>ま と め</p>	<p>9 学習のまとめをする。</p> <p>○楽しんで跳び箱運動に取り組むことはできたか。</p> <p>○約束を守り、友達と教え合ったり、励まし合ったりできたか。</p> <p>○友達と協力しながら準備や片付けを行い、場や器具の安全に気を配って運動できたか。</p> <p>○自分に合っためあてをもったり、練習の場を選択したりすることはできたか。</p> <p>○両足をそろえての踏み切り、両手をそろえての着手、両足をそろえての着地ができるようになったか。</p> <p>○今できる技を大きくしたり、目標としていた技ができるようになったりしたか。</p>	